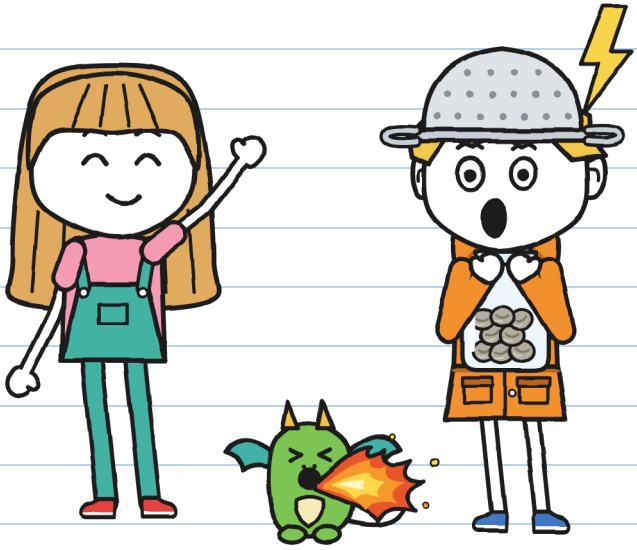
ありえない はいたつ・2

かみなり まえに あけるな

Lui Eriksson



（グニの ノート）

サイズ M
中級・9+

ありえない はいたつ・2
かみなり まえに あけるな

文と絵：**Lui Eriksson**

サイズ **M**・中級・9+

日本語版：**LinguAula**

初版：2026

© 2026 **Lui Eriksson** · **info@linguaula.com**

自由にコピーして、学校でも家でも使えます。

シリーズの 2さつめ。1さつめは「このにもつは かみつく」。

LinguAula

linguaula.comで しょうごとに れんしゅう

この本(ほん)を書(か)いているあいだに、けがをしたかみなりは一(ひと)つもいない。 —J.



そして、ほかのだれのものでもない。 ―J

見つけても、かみなり前に開けちゃだめだよ。

おはなしのなかだけ

このはんこは、お話の中だけのことをしめす：きみはやらないで。何ページもつづくときは、「ここから」と「ここまで」が書いてある。本当のあらしのときは、76ページを見て。 ―J.

だれが だれ？



グニ。どようびの はいたつやさん。あらしの ハンター（まあ、だいたい）。この ノートは グニの。



フリータ。いなびかりから かみなりまでの びょうすうを かぞえる。みどりで かいて、「J.」と サインする。



パンくず。ドラゴンの こ。グニの まねを なんでも する。ほんとうに なんでも。



トニョ。じてんしゃで イナズマびんの はいたつを する。じっぷんで とどかなければ タダ。



フローラ。うんがどおり9ばんちの にわし。いしには サインしない。



ベラさん。フローラの いえの となりの ドラゴンの いえで、ドラゴンの せわを している。パンくずは ベラさんと くらして いる。



マラさん。「ありえない はいたつ」の てんしゅ。まじょの ぼうしを かぶって いる。いうより ずっと おおくを しって いる。

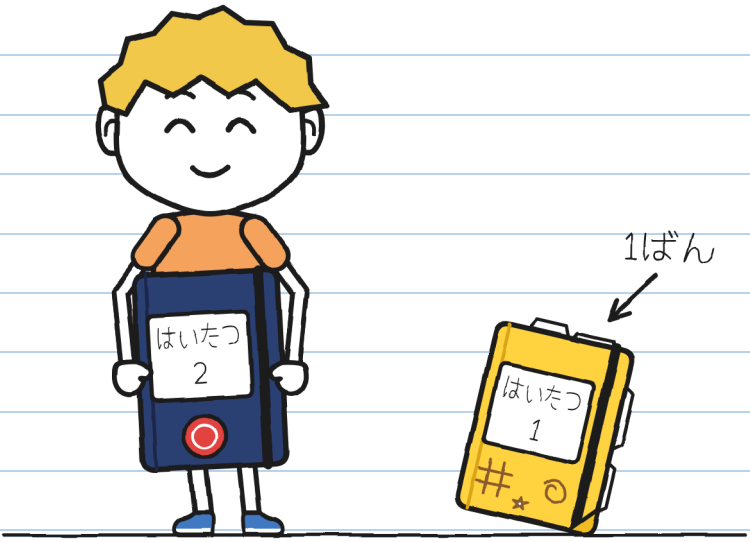


R.は、だれにも とどけられない にもつを おくるひと。その なまえを だれも いわない。

グニの
はいたつノート2

公式。

「公式」ってことは、わたしが先に読むってこと。公式に。 —J.



ノート1はいっぱいになってしまった。これは店のマラさんが、はんこをおしてくれたものだ。公式のノートに絵をかいてはいけないそうだ。さあ、どうかな。

第1章

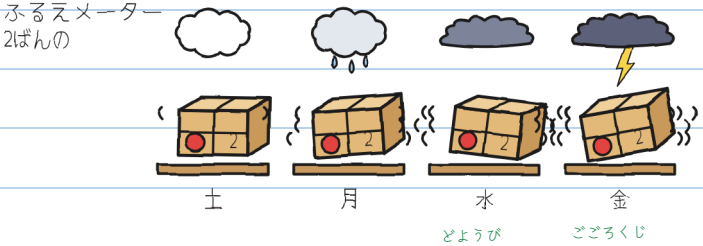
あらしの ハンター

マラさんの店には、ふるえる荷物がある。先週の土曜日から、日ごとに少しずつひどくなっている。

ぼくはさわらないと決めた。

この前フリータとぼくがとどけたのはたまごだったが、今ではぼくのまねを何でもするドラゴンの子、パンくずだ。

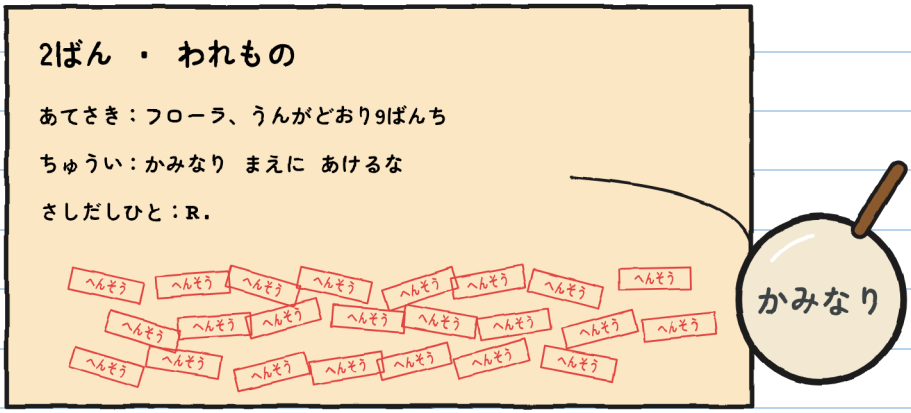
店の中、ぼくの家のむかいには、もどってきた荷物があと十九こある。ふるえているのは、ほかの荷物よりあせっている。



どようび　ごごろくじ

こわくてふるえているんじゃない。土曜日の午後六時にあらしが来るから。てんきよほうを六回たしかめた。 —J.

もどってきた荷物をうけとった人は、きえないインクでラベルにサインをしなければならない。フリータのみどりのペンのようなインクだ。しないと、夜明けにたなへとんでもどってしまう。ぜんぶ送っているのは同じ人：R.



2番の荷物には、「へんそう」のはんこが二十三こおされていた。

二十三。二回数えた。 —J.

「二十三回、わたしが運んだ」とマラさんは言った。
「でもあらしの日は一度もなかった」

土曜日の十時、マラさんがカウンターで2番の荷物を持って待っていた。トニョもいた。土曜日は、三人とも1番の荷物をかってにとどけたばつで、店にいなければならない。

「これは」とマラさんは言った。「あなたたちがとどけなさい。今日の午後に」



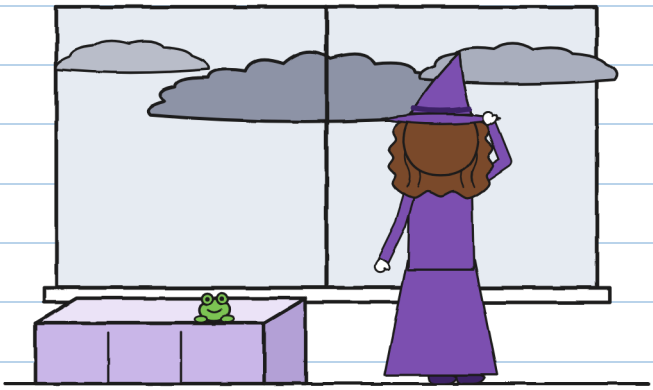
フリータはあまり高くとんだので、「のこり19」のふだにもう少しでさわるところだった。

マラさんは三つのじょうけんを出して、指で数えた：

1. 五時、あらしの前に出発する。あらしがすぎるまでフローラの家にいる。
2. 家族もフローラも、もう知っている。
3. きまりはラベルのとおり：かみなり前にはあけない。それも頭の真上のかみなりで、遠くのは数えない。

「マラさんは行かないの？」とフリータが聞いた。

「わたしはここにやることがある」とマラさんは言って、ショーウィンドウから空を見た。空はだんだんはいいろになっていた。



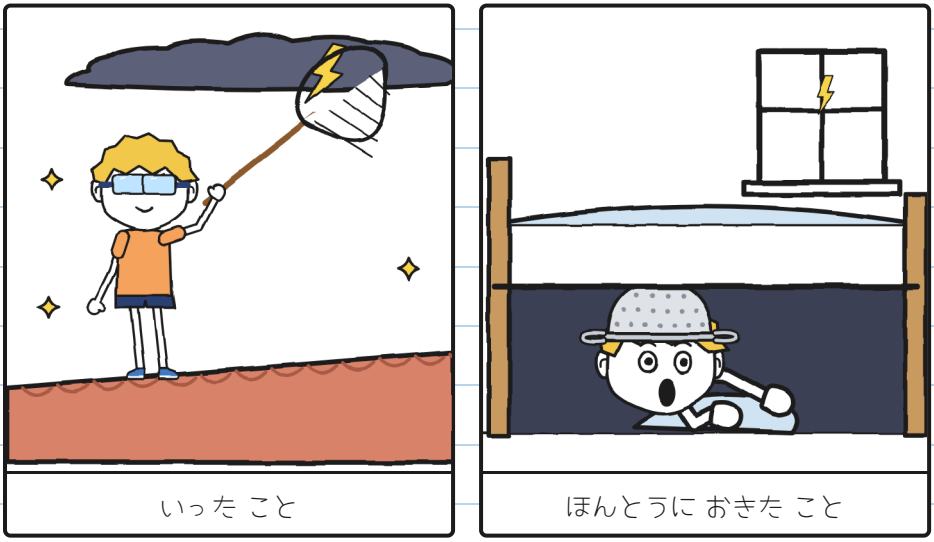
やることってなに？ —J.

フリータがぼくを見(み)た。

「グニはあらしがすき？」

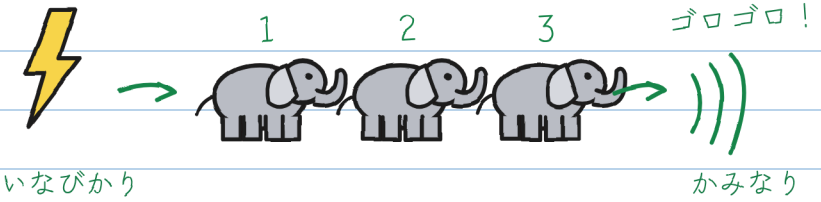
そんなふうに見(み)られたときに言(い)うことを言(い)った：

「だいすきだよ。前(まえ)に住(す)んでいた町(まち)では、プロのあらしのハンターだったんだ」



ベッドの下(した)のプロだね。 —J.

フリータはぼくのノートに、かってにあらしの数え方を書いた。いつものことだ：



ぞう1とう、ぞう2とう、ぞう3とう……

ぞう1とう＝1びょう

ぞう3とう＝1キロ（だいたい）

ぞう0とう＝まうえ！

↖ これが ラベルの かみなり。
とおくの かみなりでは あかない。

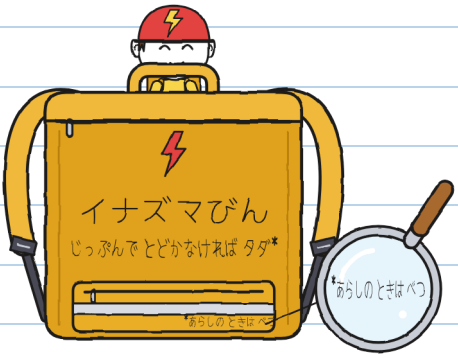
ぞうが おおい ほど、その いなびかりは とおくに おちた。

かみなりが きこえたら、とおくても：なかへ！

知っていることは、こわさがへる。 —J.

数える必要はなかった：あらしはだいすきなんだ。でも念のため、書いておいた。

トニョがぼくのかたごしにラベルを読んだ。
「イナズマ便は、あらしの日にはとどけない」
トニョはリュックの小さい字をゆびさした。
「まだあらしじゃないでしょ」とフリータが言った。
トニョは読み直した。「まだ」とは書いてなかった。

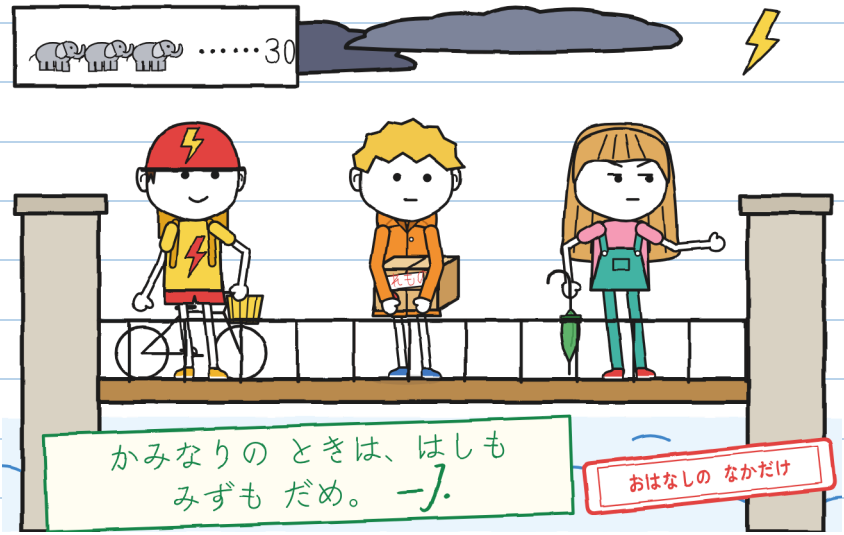


小さい字は、小さすぎた。 —J.

トニョはぼくたちについてきた。
五時に家へ行って、レインコートを取ってきた。
「オレンジのを着ていきなさい」とお母さん。「本当に行くの？ かみなりが鳴ると……」
「いってきまーす、お母さん！」

「鳴ると……」って？ —J.

ぼくたちは、空がもうまっ黒になったおおはしをわたった。夜には船が通れるようにはしが上がる。まん中で、フリータは手をふって水にあいさつした。まじめな顔で：うんがとフリータはなかが悪い。



遠くで空が光った。フリータはかみなりが鳴るまでぞうを30とう数えた。

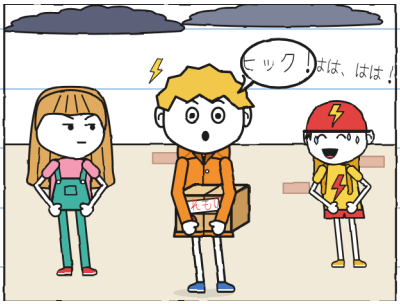
ゴロゴロ。

「あのいなびかりまで十キロくらいね」とフリータは言った。「てんきよほうでは、あらしは六時ごろ着く」

「かみなりが鳴った！」とトニョが言った。「もうあけていい？」

「あれじゃ荷物はあかない」とフリータは言った。「ラベルのは、いなびかりと同時に鳴るやつ：ぞう0とう。でももう聞こえるから、それで十分：中にかくれよう！」うんが通りまで走った。ぼくは耳が聞こえないふりをした。

「今の、ヒック？」とフリータが聞いた。
「ちがう」とぼくは言った。「ヒック！」



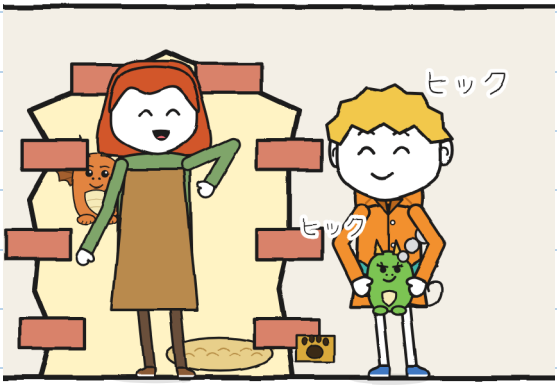
小さいころから、かみなりのときだけ：かみなりが鳴るたびに、しゃっくりがつづけて出る。三秒に一回。あらしが真上に来ると止まらない。こわいんじゃない。体がぼくに聞かずにやるんだ。

それをこわいって言うの。 —J.

ドラゴンの世話をするベラさんが、フローラの家のとなりの入り口で、パンくずをだいて待っていた。土曜日は、パンくずはぼくとさんぽだ。

「今日はフローラの家までよ。はじめてのあらしなの」とベラさんは言って、パンくずをわたしてくれた。「グニのまねを何でもする。気もちまで。おびえても、引っぱっちゃだめ：しがみつくから。あらしがすんだら、へいを三回たたいて。すぐさがしに行く」

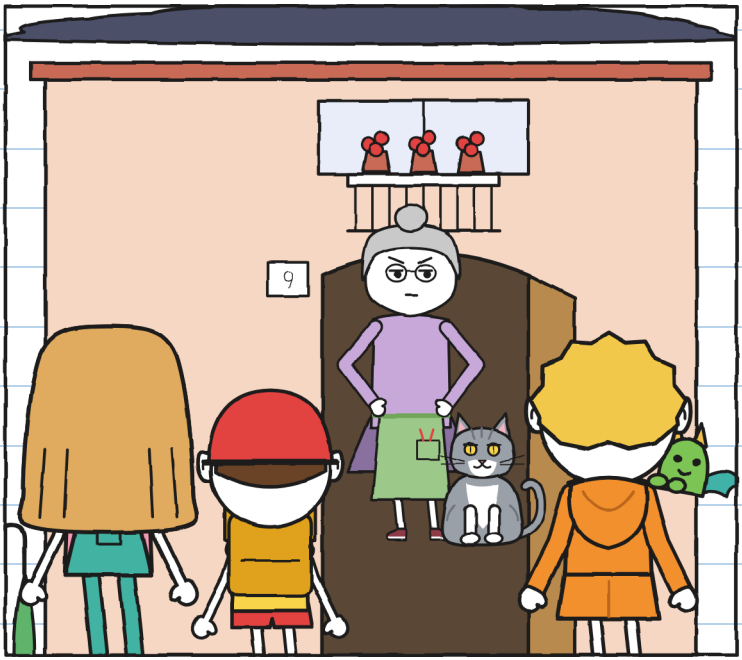
「ぼくは何も感じないよ」とぼくは言った。「あらしはだいすきなんだ」



遠くでかみなりが鳴った。ぼくはヒック。パンくずもヒックと言って、はなからけむりを出した。

「すぐ中に入りなさい」とベラさんは言った。

フローラの家は、ゼラニウムの家だ。二週間まえの土曜日、ぼくたちがドラゴンの家の入り口をさがしていたとき、フローラはあのベランダから見ていた。入り口は、かべみたいに見える。



フローラはぼくたちがノックする前にドアをあけて、箱と空とパンくずを見た。

「ベラのところの子ね。わたしのシダをこがさないでよ」と言った。「入りなさい、雨が来るよ。先に言っておくけど、わたしは石にはサインしないからね」

ひとつの おはなし、むっつの サイズ

サイズは六つあって、3さいから16さいまで。ことばは20いじょう。**XXS**、**XS**、**S**、**M**、**L**はページも絵も同じ。**XL**は小説。ちがうのは話し方だけ。

サイズ XXS · PRE-A1
フリータが ななつめの たねを つかまえる。

サイズ XS · A1
ゆかに たねが ひとつ のこって いた。フリータが つかまえた。ななつ。

サイズ S · A2
また いなびかり。ゆかには たねが 一つ のこって いた。フリータが つかまえた。七つ。

サイズ M · B1
次のいなびかりで、ゆかにのこっていたのはたねが一つ。フリータがつかまえた。七つ。

サイズ L · B2
また稲光が光ったとき、ゆかにはたねがただ一つのこっていて、フリータがつかまえた。七つ。

サイズ XL · B2–C1
イラスト小説・13+
CEFRのレベルは目安です。

みんな自分(じぶん)のサイズで。おなじあらし。 —J.

おうちの ひとと せんせいへ

linguaula.comで しょうごとに れんしゅう